ICF（国際生活機能分類）の活用によるケアマネジメント

岸和田市
2021年9月13日

株式会社かなえるリンク　取締役
作業療法士　関本充史

ICFとは？

- 国際生活機能分類

（International Classification of Functioning,Disability and Health)

WHO（世界保健機関）が定めたものであり、1980年に制定された「ICIDH（ International Classification of Impairment,Disablities and Handicaps・国際障害分類）」の改訂版。

健康に関する幅広い情報（例：診断、生活機能と障害、保健サービスの受診理由）をコード化するための枠組みを提供し、健康と保健に関する諸専門分野および諸科学分野にまたがる国際的な情報交換を可能とする標準的な共有言語を提供するものである。

ICF（国際生活機能分類）とは？

【目的】

・健康状況と健康関連状況、結果、決定因子を理解し、研究するための科学的基盤の提供

・健康状況と健康関連状況とを表現するための共通言語を確立し、それによって、障害のある人々を含む、保健医療従事者、研究者、政策立案者、一般市民などのさまざまな利用者間のコミュニケーションを改善すること

ICF（国際生活機能分類）とは？

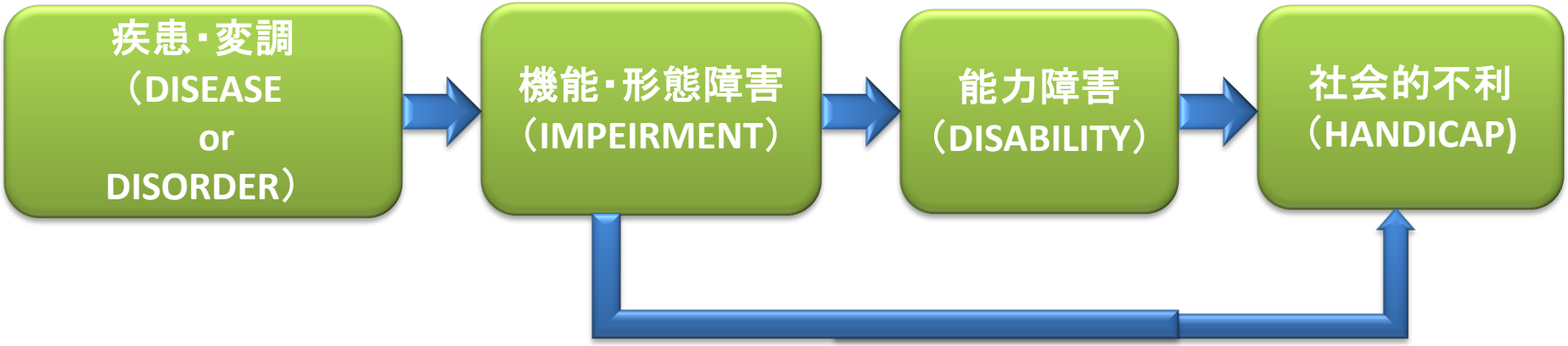
【目的】

・各国、各種の専門保健分野、各種サービス、時期の違いを超えたデータの比較

・健康情報システムに用いられる体系的コード化分類リストの提供

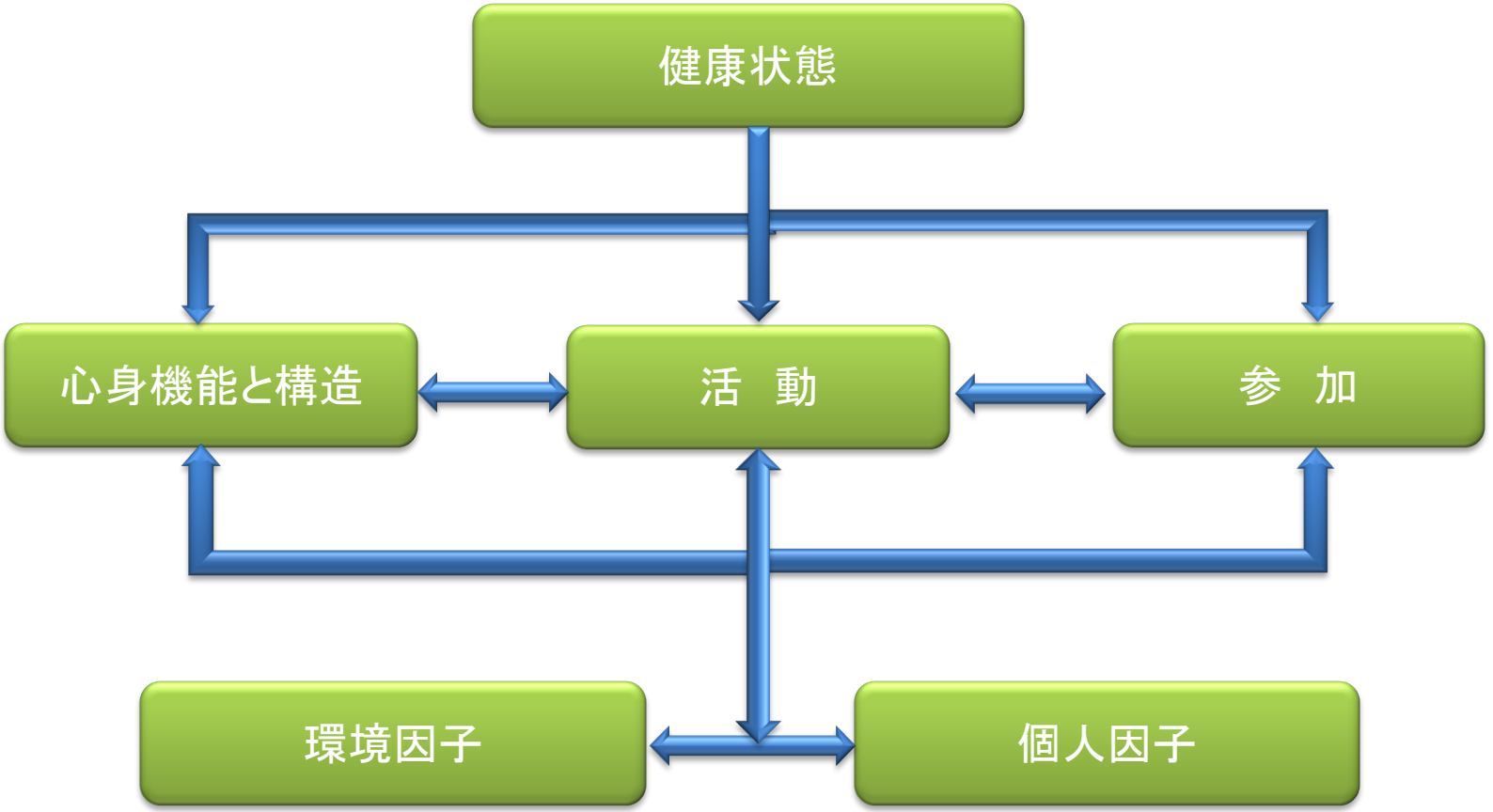
ICIDHとICF

【ICIDH（国際障害分類】



ICIDHとICF

【ICF（国際生活機能分類）】



医学モデルと社会モデル

【医学モデル】

障がいを個人レベルでとらえ、病気・外傷やそのほかの健康状態から直接的に生じるものであり、専門職による個別的な治療というかたちでの医療を必要とするもの。

障がいへの対処は、治癒あるいは個人のよりよい適応と行動変容を目標。主な課題は医療であり、政治的なレベルでは、保健ケア政策の修正や改革が主要な対応。

医学モデルと社会モデル

【社会モデル】

　障がいを主として社会によって作られたものである。基本的に、障がいのある人の社会への完全な統合の問題としてみる。障がいは個人に帰属するものではなく、諸状態の集合体であり、その多くが社会環境によって作り出されたものである。

　この問題に取り組むには社会的行動が求められる。問題はなのは社会変化を求める態度上または思想上の課題であり、政治的なレベルにおいては人権問題とされる。

ICFの構成要素（定義）

【心身機能・身体構造】

・心身機能

→新体系の生理的機能（心理的機能を含む）

・身体構造

→器官・肢体とその構成部分などの、身体的の解剖的部分である。

・機能障害（構造障害を含む）（impairments）

→著しい変異や喪失などといった，心身機能または身体構造上の問題である。

ICFの構成要素（定義）

【活動】
　課題や行為の個人による遂行のこと
【参加】
　生活・人生場面への関わりのこと
【活動制限】
　個人が活動を行うときに生じる難しさのこと
【参加制約】
　個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに
　経験する難しさのこと

ICFの構成要素（定義）

【環境因子】

・人々が生活し、人生を送っている物的な環境

・周囲でかかわる人々（家族・友人・近隣等）人的な環境

ICFの概観

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">第１部：生活機能と障害</td><td colspan="2">第２部：背景因子</td></tr>
<tr><td>構成要素</td><td>心身機能・
身体構造</td><td>活動・参加</td><td>環境因子</td><td>個人因子</td></tr>
<tr><td>領域</td><td>心身機能
身体構造</td><td>生活・人生領域
(課題，行為)</td><td>生活機能と障害への外的影響</td><td>生活機能と障害への内的影響</td></tr>
<tr><td>構成概念</td><td>心身機能の変化
(生理的)

身体構造の変化
(解剖学的)</td><td>能力
標準的環境における課題の遂行
実行状況
現在の環境における課題の遂行</td><td>物的環境や社会的環境，人々の社会的な態度による環境の特徴がもつ促進的あるいは阻害的な影響力</td><td>個人的な特徴の影響力</td></tr>
<tr><td rowspan="2">肯定的側面</td><td>機能的・構造的
統合性</td><td>活動
参加</td><td rowspan="2">促進因子</td><td rowspan="2">非該当</td></tr>
<tr><td colspan="2">生活機能</td></tr>
<tr><td rowspan="2">否定的側面</td><td>機能障害
(構造障害を含む)</td><td>活動制限
参加制約</td><td rowspan="2">阻害因子</td><td rowspan="2">非該当</td></tr>
<tr><td colspan="2">障害</td></tr>
</table>

ICFの使用

- ICFは健康領域と健康関連領域に関する標準的な操作上の定義を提供するが，この定義は一般用語としての健康の定義とは異なるものである。これらの定義は各領域の本質的な属性（例：性質，特性，関係）を示し，各領域について「含まれるもの」と「除かれるもの」についての情報を含んでいる。

- その定義は一般的に用いられる評価のための標準点（anchor points）を含むため，アンケートに転用することが可能である。

ICFの使用

- ICFは健康領域と健康関連領域に関する標準的な操作上の定義を提供するが，この定義は一般用語としての健康の定義とは異なるものである。これらの定義は各領域の本質的な属性（例：性質，特性，関係）を示し，各領域について「含まれるもの」と「除かれるもの」についての情報を含んでいる。

- その定義は一般的に用いられる評価のための標準点（anchor points）を含むため，アンケートに転用することが可能である。

ICFの使用

【ICFコード】

- ICFは最初のローマ文字と数字を組み合わせた方式をもちいる。
- 文字のb，s，d，eはそれぞれ心身機能，身体構造，活動／参加，環境因子を意味するために使用される。
- これらの文字の後には，数字のコードが章番号（1桁目），第2レベル（2桁目），第3，第4レベル（各1桁）と続く。

ICFコードの例

b 134　睡眠機能

b 1340　睡眠の量
b 1341　入眠
b 1342　睡眠の維持
b 1343　睡眠の質
b 1344　睡眠周期に関連する機能
b 1348　その他の特定の睡眠機能
b 1349　詳細不明の睡眠機能

含まれるもの：
睡眠量、入眠、睡眠の維持や質に関する機能。睡眠周期に関する機能。たてば、不眠、過眠、ナルコレプシー。

除かれるもの：
意識障害（b 110）、活力と欲動の機能（b130）、注意機能（b140）、精神運動機能（b 147）

ICFの使用

- ICFで分類されたこれらすべての構成要素（心身機能，身体構造，活動と参加，環境因子）は共通スケールを用いて量的に示される。

xxx. 0	問題なし（なし，存在しない，無視できる…)	0-4%
xxx. 1	軽度の問題（わずかな，低い…）	5-24%
xxx. 2	中等度の問題（中程度の，かなりの…）	25-49%
xxx. 3	重度の問題（高度の，極度の…）	50-95%
xxx. 4	完全な問題（全くの…）	96-100%
xxx. 8	詳細不明	
xxx. 9	非該当	

ICFコードの例

b 134　睡眠機能

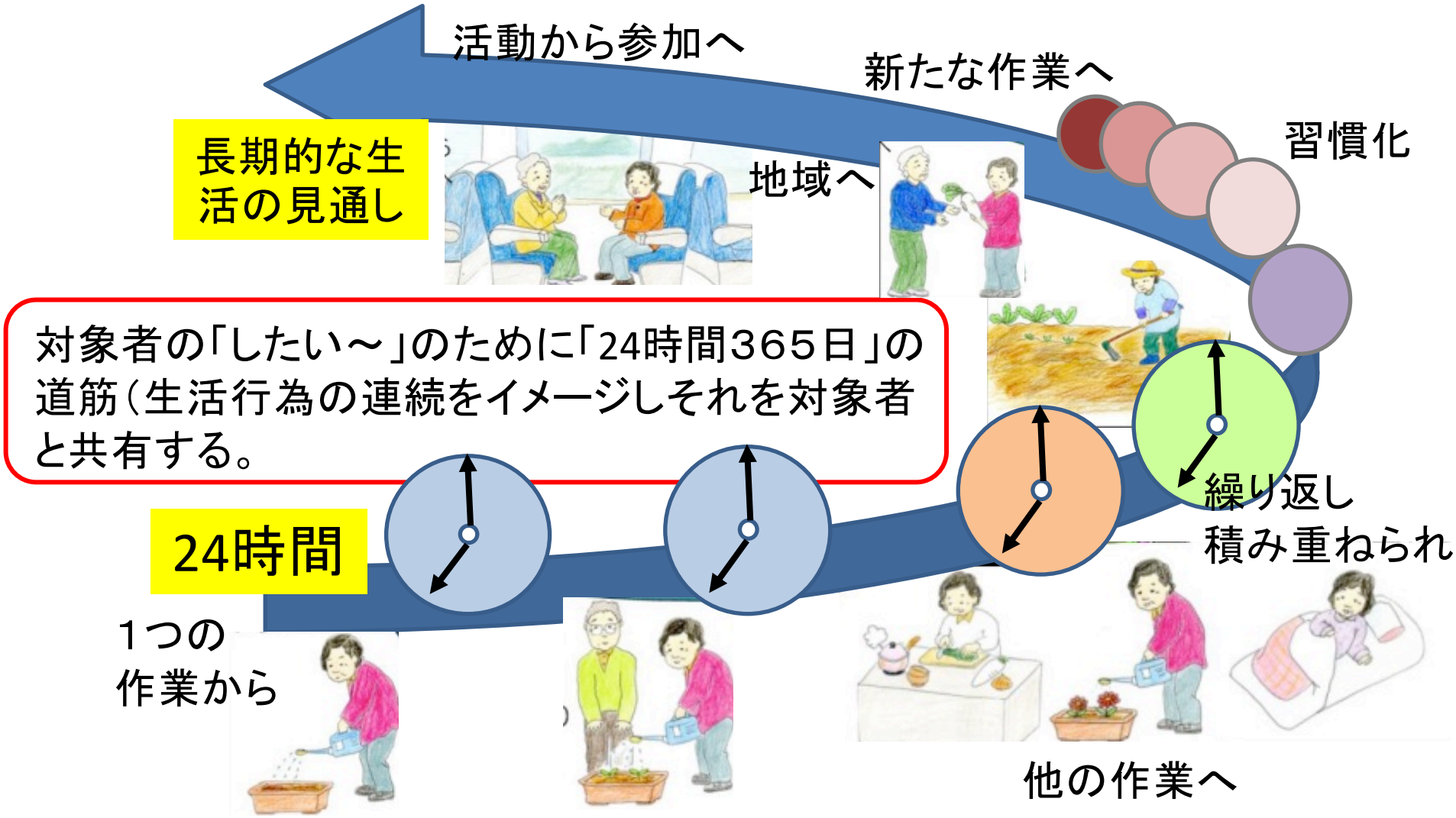
b 1340　睡眠の量
b 1341　入眠
b 1342　睡眠の維持
b 1343　睡眠の質
b 1344　睡眠周期に関連する機能
b 1348　その他の特定の睡眠機能
b 1349　詳細不明の睡眠機能

b 134．3　→ 睡眠機能に重度の問題があり
b 1341．3 →入眠に関して重度の問題があり

ICFの使用

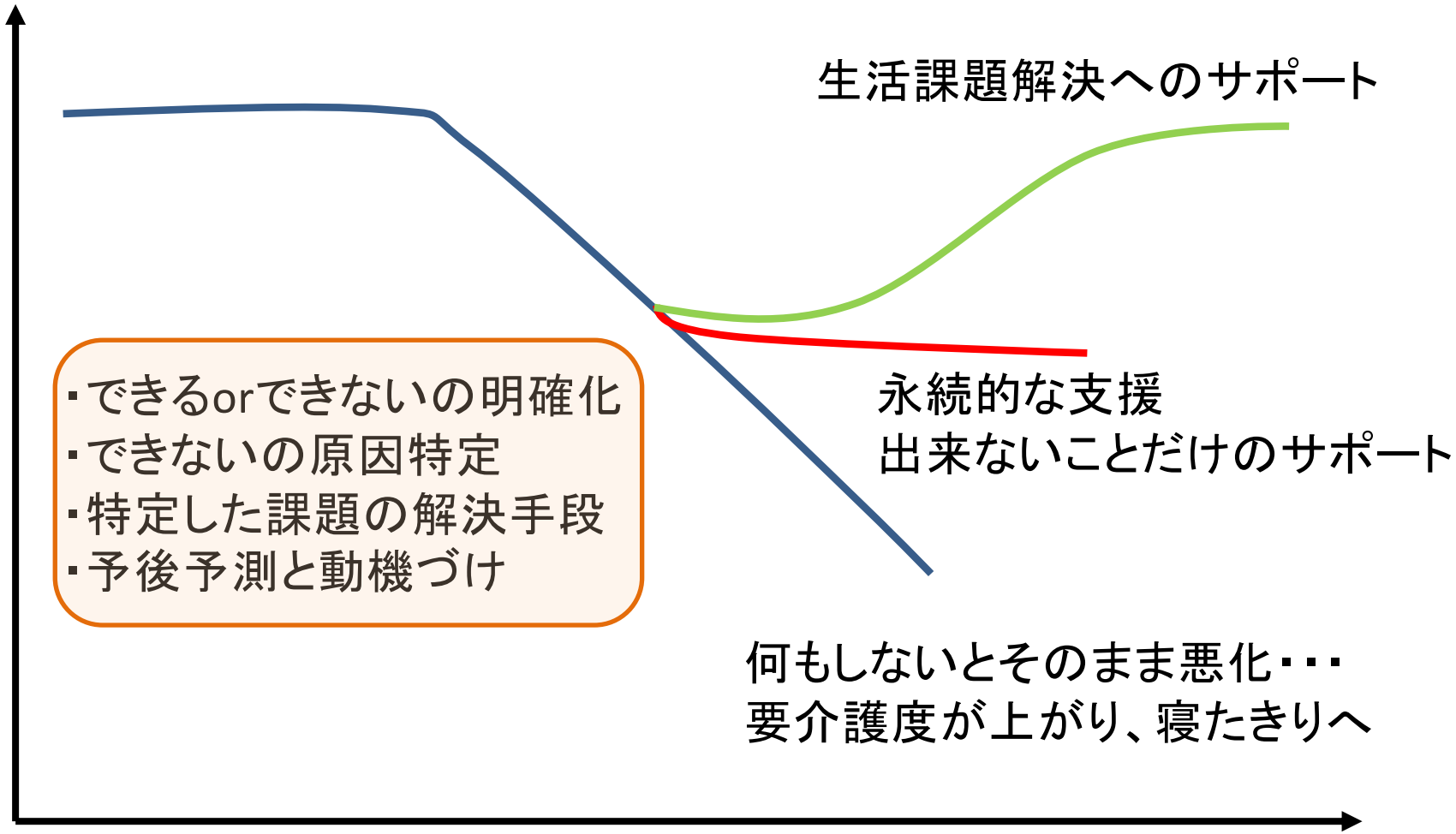
構成要素	第１評価点	第２評価点
心身機能(b)	否定的スケールによる共通評価点であり，機能障害の程度や大きさを示す。 例；b167．3は言語に関する精神機能の重度の機能障害を意味する。	なし
身体構造(s)	否定的スケールによる共通評価点であり，構造障害の程度や大きさを示す。 例；s730．3は上肢の重度な構造障害を意味する。	各々の身体構造の変化の性状を示すために用いられる。 0　構造に変化なし 1　全欠損 2　部分的欠損 3　付加的な部分 4　異常な大きさ 5　不連続 6　位置の変異 7　構造上の質的変化（液の貯留を含む） 8　詳細不明 9　非該当 例；s730．32は上肢の部分的な欠損を表す。
活動と参加 (d)	実行状況 共通評価点 その人の現在の環境における問題。 例；d5101．_1 は，その人の現在の環境において利用可能な補助用具を使用して，全身入浴に軽度の困難があることを意味する。	能力 共通評価点 介助なしでの制限 例；d5101．_2は，全身入浴に中等度の困難がある。これは福祉用具の使用または人的支援がない場合に中等度の活動制限があることを意味する。
環境因子(e)	共通評価点であり，阻害因子と促進因子とのそれぞれの程度を示す，否定的スケールと肯定的スケールとからなる。 例；e130．2は，教育用の生産品と用具が中等度の阻害因子であることを意味する。逆に，e130＋2は教育用の生産品と用具が中等度の促進因子であることを意味する。	なし

生活行為の波及効果を目指す



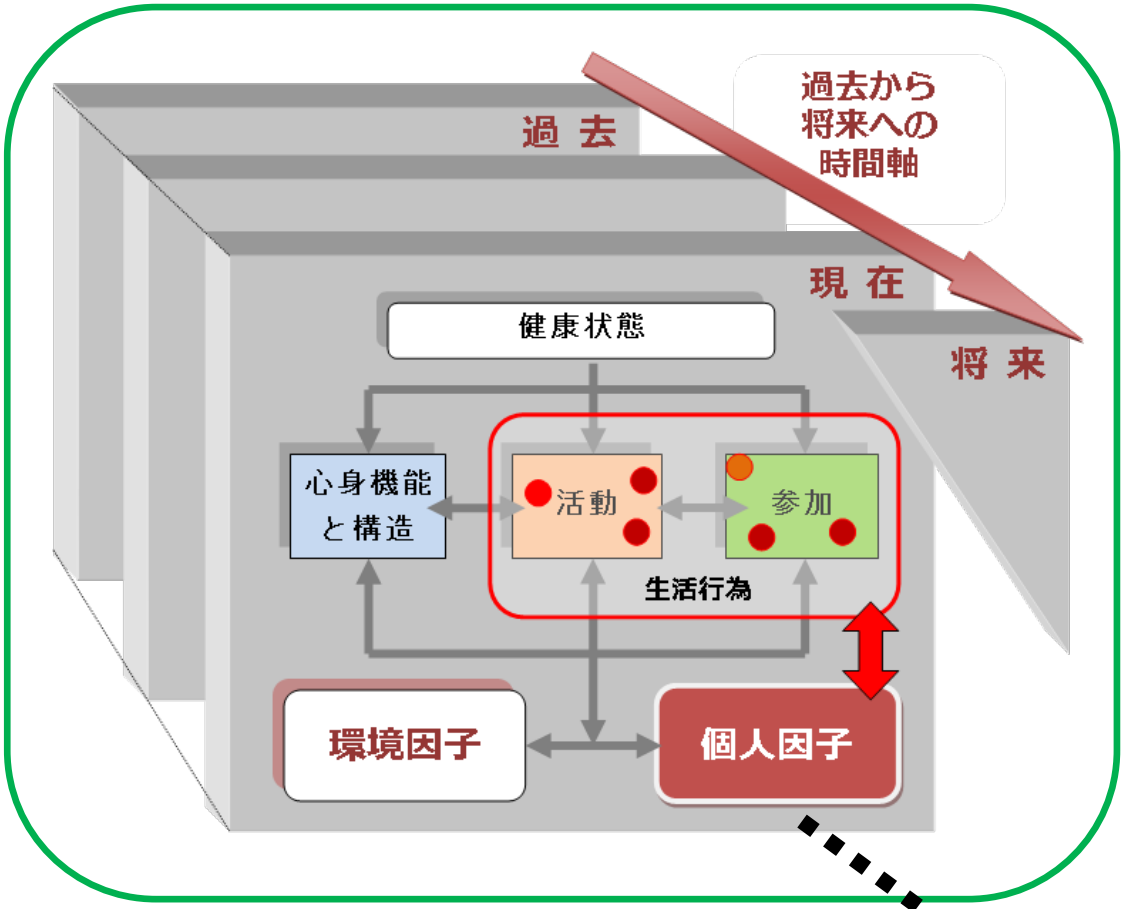
引用：生活行為向上マネジメントマニュアル

生活行為の連続性


生活課題解決へのサポート
・できるorできないの明確化
・できないの原因特定
・特定した課題の解決手段
・予後予測と動機づけ
永続的な支援
出来ないことだけのサポート
何もしないとそのまま悪化・・・
要介護度が上がり、寝たきりへ

生活行為と個人因子

ICFの各要素が、過去ー現在ー将来と連続する時間軸の中で、相互に作用しながら、活動と参加の中にその人らしい生活行為を生み出していく。



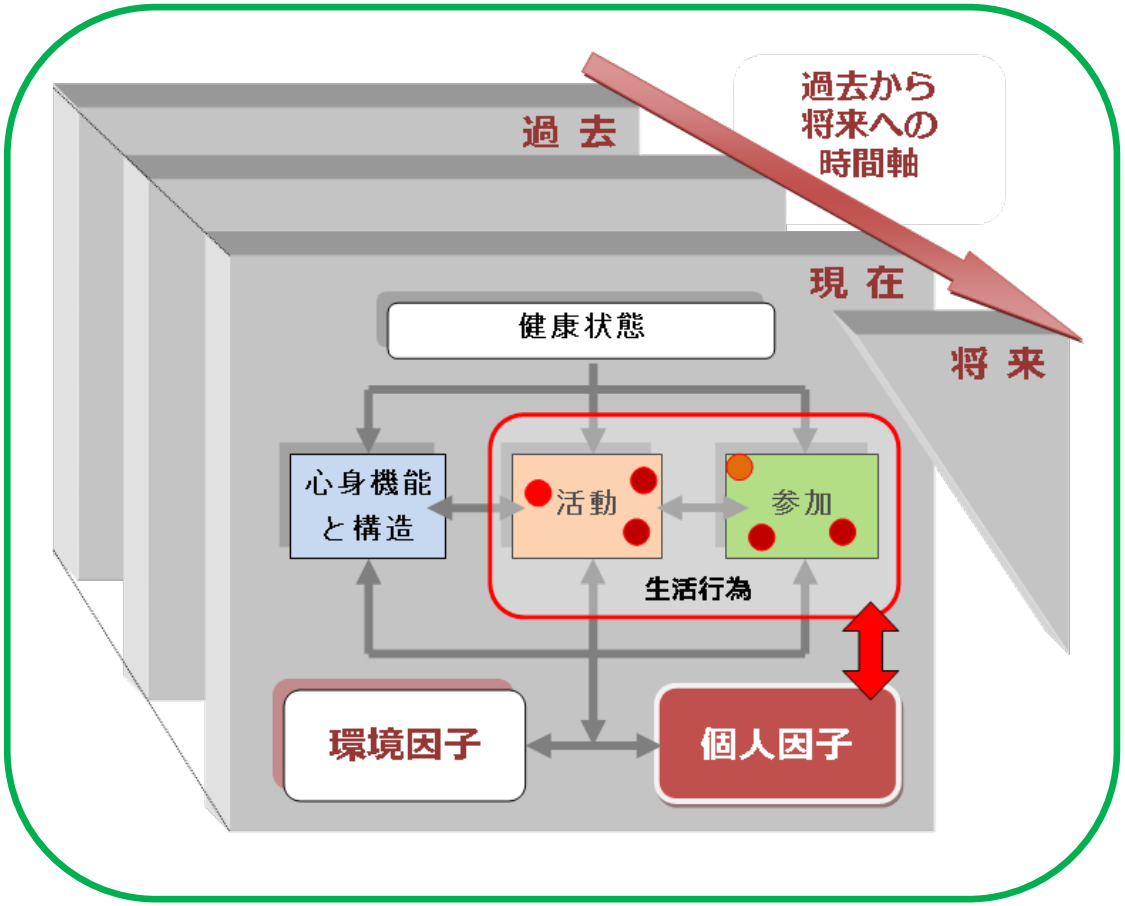
特に、主要な生活行為は個人因子と深く結びついていて、個人因子の情報の中から読みとることもできる。

・性別・人種・年齢・その他の健康状態
・体力・ライフスタイル・習慣
・生育歴・教育歴
・性格・個人の心理的資質・その他の特質
・職業・個人的原因帰属・価値・興味
・役割・困難への対処方法・社会的背景
・過去および現在の経験
（過去や現在の人生の出来事）
・全体的な行動様式・主観的構成要素など

引用：生活行為向上マネジメントマニュアル

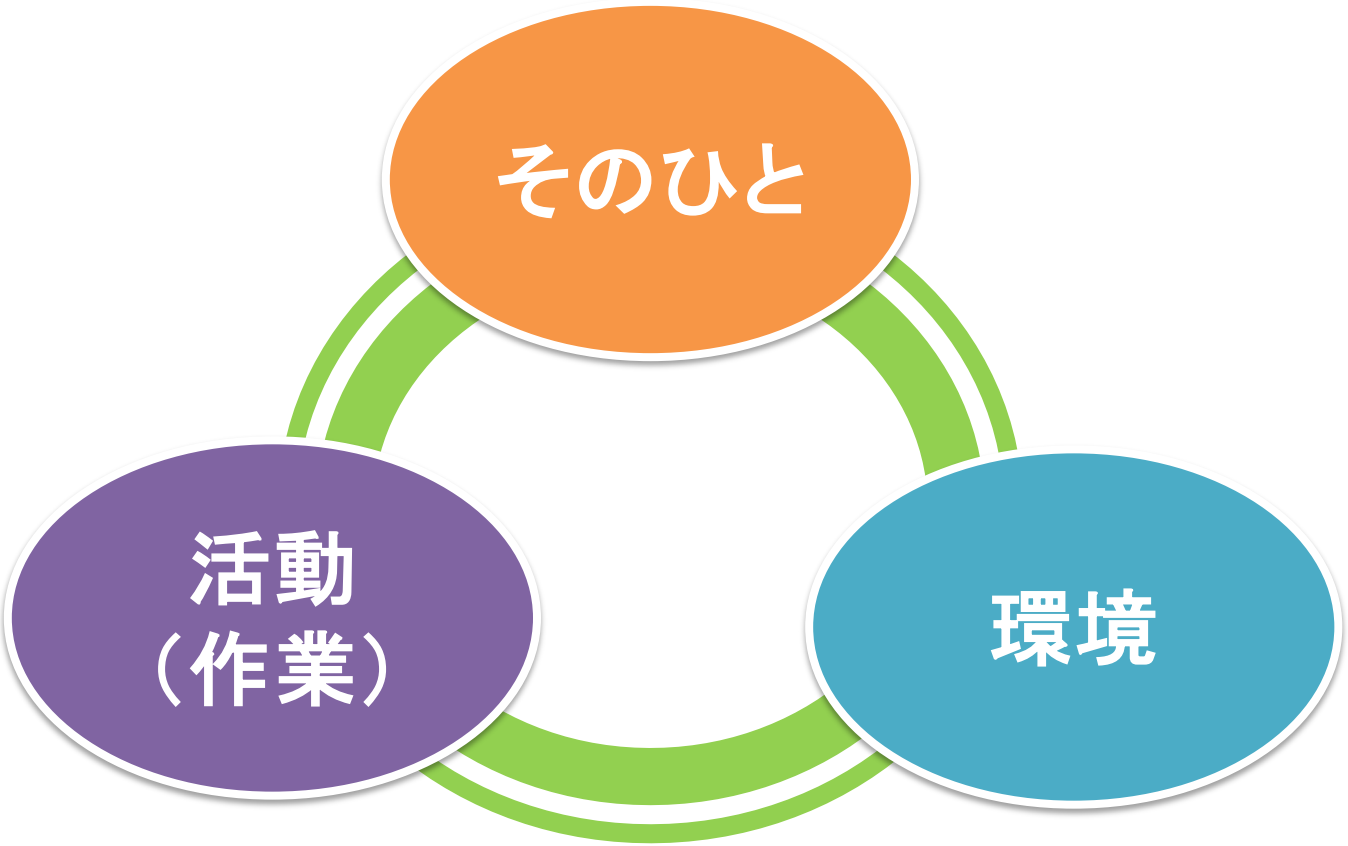
生活行為と個人因子

ICFの各要素が、過去ー現在ー将来と連続する時間軸の中で、相互に作用しながら、活動と参加の中にその人らしい生活行為を生み出していく。



引用：生活行為向上マネジメントマニュアル

まとめ



まとめ

- ご本人の個人因子をどこまで、生活目標に取り入れられるかを常に振り返る
- ご本人を取り巻く人がリスク管理をするのではなく、ご本人がどれだけ「したい活動があるか」「それをするためには」の動機づけができるか
- それを整理するためにも、ICFの視点で整理
- 次のステップ（課題）を一緒に、もしくは自らが見つけ出せるように支援していく
- ご本人とその環境、一番大切にしている活動（意味ある作業）につなげていくことがとても大切

ご清聴ありがとうございました。